

会 議 録

会 議 名	令和5年度文化によるまちづくり推進委員会（第2回）	
開 催 日 時	令和6年3月1日（金） 18時00分～20時00分	
開 催 場 所	第二委員会室（市役所3階）	
出 席 者	岸田 茂、比嘉 朝康、齊藤 大二郎、池上 雅代、 東原 秀一、縄田 也千、伊藤 久美子、脇本 忠典、 竹内 道子、松永 進、湯城 明彦、塩田 賢二	委 員 数 15人 出席者数 12人 欠席者数 3人
欠 席 者	廣田 由実、穂本 真一、八橋 裕起	
事務担当課 及び職員	協創部文化スポーツ推進課：原田課長、別府、奥	
会 議 次 第	1 委員長あいさつ 2 議題 (1) 文化に関する意識調査アンケートの結果について (2) 前期行動計画の進捗状況について (3) 令和5年度及び令和6年度の予算について 3 その他 次回会議について（令和6年7月～8月頃）	
委員長	次第2 議題 (1) 文化に関する意識調査アンケートの結果について 資料1 、 資料2 に沿って説明。 アンケート結果に対する委員の意見を伺いたい。	
委員	予想通りの結果と考える。調査概要2ページのアンケート回答件数について、一般用が791件、学生用が838件で、回答率が10.27%及び19%となっており、回答率が低いと思う。一般的に、30%又は40%、高いところでは約50%ある印象。回答率の低さからも文化に対する意識が低いことが感じられた。 資料1 17ページ調査結果【学生用】より、アンケートに回答した学生の内訳について、中学生及び高校生は比較的多い印象だが、大学生に関して4人と少ない。10代後半～20代前半の大学生がなぜ回答しなかったのかというところは問題にすべきだと思う。利便性を考慮して大学生はインターネット回答という手段をとったにも関わらず回答率が低いことは、何らかの原因があるように感じた。その他については、全体的に低いとはいえ、回答を得ることができたことから、ある程度の分析ができたのではないかと思う。 資料1 11ページより、一般の方の各種イベントへ行けない理由で、「育児や介護、学業や仕事により時	

	<p>間がなかなか取れない」が363人と一番多く、次いで「関心がない」が172人となっている。一般の方に関心を持ってもらうためには、「時間がなかなか取れない」ということについては、この会議での議論だけではなく、社会全体の問題にも関係しており難しいと感じる。一方で、資料2一般用「これからの文化芸術」において「子どもが文化芸術に親しむ機会が重要である」とあるが、そのとおりと思う。大人の方にもそれなりに来てもらう必要があるが、やはり小さい頃から文化・芸術に触れる機会を設ける、例えばアウトリーチ方式を増やして学校や近くの施設で子ども達に授業の一つとして参加させることは非常に重要なのではないかと思う。</p>
委員	<p>アウトリーチの話が出たが、やはり全体的に自ら動かず、来たら受け入れる傾向にあるように感じる。保護者は、子ども達の文化・芸術の意識を豊かに高めたいと思う一方で、自らは足を運ばず、文化的な公演等を学校で行う、あるいは近くに来て行うなど、そういった形ならば、自ら子ども達を連れていく必要もなく、時間や費用を捻出することもない。小さい頃からアウトリーチ方式で、こちらが出向いて文化・芸術に触れる機会を設けることで、子ども達が自ら行ってみたいという気持ちを育み、主体的に文化的なものに飛び込んでいけるのではないかと思う。現在も行っているが、さらにアウトリーチ方式を増やしていただければ、学校はそういった場を設定し、保護者も巻き込んでいきたい気持ちはあるため、保育園の頃から行ってもらえるとうありがたい。</p>
委員	<p>インターネット回答は多かったのか。</p>
事務局	<p>インターネット回答が1,628件、アンケート用紙での回答が1件となっている。</p>
委員	<p>一般も学生も「答えたくない」という人が一定数おり、その理由がインターネット回答という方法が原因なのか、あるいは別の理由なのか、どうしてなのか知りたい。また、資料17ページの不二輸送機ホールで行われる市主催事業について「知らない、分からない」と回答した人が42%と高く、市民に文化的な催し物を知らせることについて不備があるのではないかと思う。</p>
委員長	<p>告知の問題について、重要課題にも入っているがうまく機能していないことが理由として大きいと考えられる。また、アウトリーチの話と関連するが、来てくれれば聴く、自分が調べてまで足を運ばない等、ここも理由の一つにあると思う。この二つが「答えたくない」という理由に隠れている。</p>

委員	<p>興味を持ってもらえるものを行っているかどうかと思う。時代によって好まれる文化も変わる。資料1 10ページにあるように、10代及び20代は「ほとんどのイベントに足を運んだことがない」との回答で、若い方がこういったイベントに興味がないように見られる。一方で、映画（アニメーション映画を含む）は全世代を通じて多い傾向にある。幅広い範囲で文化的なイベント等を行うべきではないだろうか。</p>
委員	<p>10代や20代は確かに低いですが、回答者数が10代は6人、20代は7人と少なく、このデータから、一概に若い方の好む芸術文化への傾向がつかめるとは言い難い。30代は255人、40代は420人の回答があることから、ある程度、好まれる文化芸術への傾向はつかめたと言える。また、文化といっても祭りは多くの人が行っている。地元の祭りには行くが、不二輸送機ホールで行うような催し物については、行かれる方が少ないように思う。</p>
委員	<p>予想通りの結果と思う。関心が無いとはいえ、多くの情報がある中で、好きなものは積極的に探しに行く。ガラス未来館では30～40代が多く、主な理由として子どもにガラス体験の機会を与えたいというものが挙げられる。逆に20代は、自分のやりたいことに向かっていくため、実際にガラス体験に来られる方は少ない。一昨年、山口東京理科大学内で行われたアンケート結果の中に、小学生時代に様々な文化・芸術体験をした人は繰り返し経験する傾向にある、とあった。小学校では、体験学習の一つにガラス未来館でガラス体験をしている。中学生になると、好みが大きく変化するため、小学生のうちに、様々な文化・芸術体験を通して感性が磨かれると、また何度か来てもらえることから、そういったところに力を入れていってもらえればと思う。</p> <p>また、「分からない」という回答は、やはり興味がないことが大きな理由ではないかと思う。「知らない・分からない」というよりは、「知るつもりがない」という風にとらえた。</p>
委員	<p>おのだサンパークでポップサーカスが始まっているが、多くの方が来場すると予想される。これが、ポップサーカスではなく別の文化公演だったら、と思うと、地理的な条件が来場者数に大きく影響していると思う。例えば不二輸送機ホールが市役所に隣接していれば、様々なイベントへ多くの方が来られると思う。年齢が低いほど、不二輸送機ホールへ行く機会が限られており、学校がバスを手配するなどしないと、特に旧小野田市の学校の子供達は足を運ぶことがほとんどない。このことから、地理的条件も考慮しなければならないのでは、と考えている。また、小中学校では、一人一台、タブレット端末が配付されている。端末を活用することは、生徒の</p>

	<p>考えを知る一つの方法ではないかと思う。アンケートの回答率の低さから、もう少しアンケートの実施について工夫できたのではないかと思う。今回初めての試みだったので、次回、実施する時に改善し、回答率を高くしていけばいい。あとは、現在のデジタル社会において、各イベントの周知方法を、市民に向けた紙媒体だけではなく、どう周知するのか、その手段も含めて市の役割は大きいと思う。</p>
委員	<p>アンケートの回答率の低さについて、回答していない人が「興味・関心がない」という考えを持っていることが要因の一つと思う。さらに、「興味・関心がない」と回答した人もおり、実際には、回答していない人を含めて90%を超える方々が「興味がない」という可能性がある。統計学的なところから言うと、1万人を超える母数の中から6,000人を超える回答がないと、99%の信頼を得られるデータとは言えない。80%の信頼を求める場合でも、3,000人の回答は欲しいところである。また、興味がある人達を単純に増やしていくことが必ずしも成功とは思わない。オーケストラや歌舞伎などは、素晴らしい文化・芸術であると思うが、全国民・全市民という目線で見るとある種ニッチなものである可能性があり、興味がある10%の人たちが満足するような取り組みをするのも一つの成功ではないかと思う。例えば収容人数が300人の会場で、全市民が押し寄せるといったイベントを行うのもいいが、市内外から300人きっちり集まって満足してもらえるようなことをするのも成功の一つだと思う。アンケートの結果に対して、少し寂しい気持ちもあるが、これが事実であることに間違いはない。文化・芸術に対して関心を持つ人を増やしていきたいが、既に興味を持っている人達のために充実した取組をしていくのも一つの手段だと感じた。</p>
委員	<p>回答率の低さには落胆した部分もあるが、予想通りでもある。アンケートの配付はどのように行ったのか。</p>
事務局	<p>小中学校には、全生徒にQRコードが印刷されたプリントを配付した。</p>
委員	<p>小学校では、保護者宛てにプリントが配付された。グーグルフォームを介して行えば、保護者もすぐに回答ができたが、プリントからQRコードを読み取るとなると、なかなか回答しない保護者が多いと思う。学校側に遠慮されたかもしれないが、グーグルフォームを活用するようにすれば回答率は上がるはずである。</p>
委員	<p>インターネットや紙媒体など、配付件数を教えていただきたい。</p>

事務局	山口東京理科大学については、学生が見るポータルサイトの掲示板に掲載し、小中学校と高校については、QRコードのついたプリントを配付した。いずれもオンラインの回答のみである。無作為に抽出された一般の市民200名には、QRコードのついた案内文書を送付したが、紙媒体の回答を希望する場合は市から改めてアンケート用紙を送付して対応するようにしていた。
委員	小学生はQRコードを読み取るような方法でアンケートに回答できるのか。
委員	小学1年生においても、QRコードを読み取って回答するシステムについて理解しており、答えることもできる。ただし、アンケートの内容まで理解することは難しいことから、今回は保護者向けのアンケートとなっていた。アンケートが学校宛ての回答であれば、保護者の大半が回答していただろうが、学校宛てではなかったことから、回答率も低かったのだと予想される。
委員	今の学生は、好きなライブ等は一生懸命になってインターネットでチケットを入手する。入手するにあたり競争することもあるが、インターネットで何でも手に入るのも、自分が好きなことに対しては非常に熱心である。一方で、車を持っていない生徒もおり、文化会館のことをあまり知らない。
委員	文化会館では、あまりそういった催し物が行われない。
委員	大学では、東京やディズニーランドに行ったことがないという声を多数聞き、あまり遊ぶ機会がなかった学生が多いんだな、と思うことがあった。昨年からはSTEAM教育の一環として文化芸術の教育が必要ということで、現在、授業で現代美術の紹介をしている。山口県立美術館で佐藤健寿展「奇界/世界」が開催されたが、若い方が非常に多く来ていた。テレビ番組で佐藤健寿氏が出演していたこともあり、実際に行った学生からは「こんなに面白いものを久しぶりに見た」「こんな内容だったら絶対行きたい」という感想も聞き、とても喜んでいて。授業でも、草間彌生やバンクシーを取り上げると、非常に興味を持っているようで、「現代美術が面白い」という感想が多く寄せられることもあり、こちらから色々と提供することの必要性を感じた。文化会館であれば、例えば、パリオリンピックで採用されたブレイキンのダンサーなどを呼べば、学生も来ると思う。今回アンケートの回答率が低く、その割合を今後高くする必要があるが、こちらが様々な情報を提供すれば学生から何かしらの反応が返ってくる。学生や保護者が興味を持つようなものを提供することが重要と思う。文化が根付く

	<p>までに時間がかかる。さくら保育園ではかるたの教室が定期的に行われており、園児たちはかるたの先生が来るのを非常に楽しみにしている。小さい頃から時間をかけて積み上げていくことが大切であると思う。</p>
委員長	<p>先ほども出たが、今の意見は、提供する情報が時代又は要求に即しているか、という提案である。</p>
委員	<p>年齢を重ねた方で伝統文化に携わる人は多いが、一方で若い方は新しいものを好む傾向があり、どうしたら良いのか難しいところである。</p>
委員長	<p>時代の流れに対する対応と伝承をどうするのか、その比率であると考える。アンケートとはまた別の問題である。2月10日に北九州グランフィルハーモニー管弦楽団演奏会（以下、グランフィルハーモニー演奏会と言う。）を行った。資金をふるさと納税（クラウドファンディング）で募集したところ、あっという間に集まり、さらにチケットが即完売となった。伝統文化に関する反応だと思う。席によって価格を変えたが、市外の方で一番高額な4,000円の席を希望する人が多く、子どもがチケットを欲しがっているという保護者からの問い合わせもあった。当日券も用意していないと周知していたにも関わらず、並んでいる状態だった。このことから、関心がない人ばかりではないということが言いたい。どんなことを行うのか、その中身を選ぶことについて考えるべきと思う。日頃は、どうしても予算に合わせたものを選ぶようになる。予算を今回のように別の手段で調達することも選択肢の一つとして考えて、まずは中身を充実させることがキーワードではないだろうか。</p> <p>今後の対策について委員の皆様の意見を伺いたい。</p>
委員	<p>会場を不二輸送機ホールではなく、小野田地域交流センター（市民館）で行うことはどうだろうか。</p>
委員	<p>今回のアンケートの取り方が、不二輸送機ホールへの来場の有無、さらに、そこで行われたイベントへ来たことがあるか、という聞き方であった。市民館やその他の場所でも様々なイベントが行われている。そういったところも含めて意識調査をする必要があったのではないだろうか。さらに、不二輸送機ホールに関して言えば、地理的な問題がある。不二輸送機ホールだけポツンとあるのではなく、近くに何かあればいいと思う。徳山駅前のように、図書館だけではなく、周辺の商業施設等を巻き込んで、賑わいを生むような取り組みをするように、不二輸送機ホールの周辺にもそういったものがないと、イベントのためだけに来場し、終わったらすぐ帰る、さらに交通手段も不便となると、人を集めることが難しいのではないかと思</p>

	う。長期で考えながら、どう発展させるのか検討する必要がある。
委員長	イベントの実施について、市民館の活用が挙げられたが、会場の規模によって内容を選ばなければいけない。不二輸送機ホールの収容人数が約700名に対し、市民館は約400名と、少し行いづらいところではある。市役所の隣にあれば、という意見については、現状は難しいので、今ある条件下で考えなければならないと思う。また、子ども達の関心がないことについてだが、サビエル高等学校では関心がないからこそ、そういった機会を設けるんだ、ということで、1・2年生がグランフィルハーモニー演奏会を聴きに来た。私学という自由度を活かし、子ども達に体験をさせることは非常に効果があると思う。
委員	不二輸送機ホールの周辺に賑わいを持たせることは、すぐには難しいことだが、不二輸送機ホールの中に関しては、お茶を飲むスペースやトイレなど、もう少し洗練された空間になれば、また行きたい気持ちになると思う。
委員	ガラス未来館に小学生がよく体験に来ている新聞記事を見る。どのくらい的人数がどうやって行っているのか。
委員	クラス単位で来られることが多い。基本的には市のマイクロバスを使っている。生徒からは体験料の半分と保険料をいただいている。移動手段も全てこちらで用意している。
委員	文部科学省の補助で行っているのか。
委員	指定管理料で行っている。
委員	文化協会に対して、知らないと回答した人が半数以上いることについてショックだった。不二輸送機ホールまで、子ども達は歩いてはいけないので市のバスを活用したり、文化協会でも確保するなどすれば、文化的な経験ができるのではないかと思う。
事務局	子ども文化ふれあい事業において、大型バスを用意し、市内の全小学生を一同に不二輸送機ホールに集め、年に1度、公演を行っている。
委員	山口東京理科大学生は、入学式を不二輸送機ホールで行っていることから、回答した学生が多ければ、不二輸送機ホールを知らない、という割合は少なかったと思う。小野田地域の小学生は、行くことができない子が多いと想像でき、行く手段を提供する、あるいは内容をセットにして企画し

<p>委員長</p>	<p>てあげると行きやすくなり、「知らない」という結果は少なくなってくると思う。</p> <p>文化協会でも、グランフィルハーモニー演奏会では山口東京理科大学生を対象にバスを用意した。さらに、アンケートの話だが、山口東京理科大学の中には様々な告知手段があるようで、その手段を間違えると大多数の学生が見ないらしく、そういった理由もあるかもしれない。また、今回の演奏会では大学生に実行委員会やボランティアに入ってもらってもらい、後ろの席に座って演奏も聴いてもらった。自然に導入するような形で、聴く機会を設けたところ、今まで興味を持たなかった学生も演奏後には、非常に反応がよかった。</p>
<p>委員</p>	<p>本物の音楽を聴かせることや、やりたいと思う気持ちが生まれることが大事だと思う。現在、江汐公園にストリートピアノが置いてある。月に1度音楽会を行っており、即興で自分も参加した。まずは、そういった場所に参加することで楽しい気持ちが生まれ、次は本物の音楽を聴きに行こうとなると思う。美祢市では世界的に有名なピアニストが、国の補助で期間限定だが学校の先生になった。毎日小学生にピアノ演奏を聴かせているようで、子ども達から曲名が出てきた時は驚いた。このような体験が本物の音楽を聴くことへ繋がるのではないかと思う。高千帆地域交流センターには、古いピアノがあり自由に弾くことができ、コンサート並みの演奏をする学生もいる。文化的なものの中でも、そういったところを大事にしたいと考えている。</p>
<p>事務局</p>	<p>(2) 前期行動計画の進捗状況について (3) 令和5年度及び令和6年度の予算について 資料3、資料4、資料5に沿って(2)(3)を続けて説明。</p>
<p>委員</p>	<p>資料3 2ページの重点プロジェクト①-3 (1) 芸術文化アドバイザーの活用について、具体的にどのようなアドバイスがあったのか。また、重点プロジェクト①-4「情報提供」について、令和6年度も引き続き実施とあったが、アンケートの結果から言えば、なかなか浸透していないため、令和5年度の延長ではなく、何か工夫する必要があるのではないか。最後に、3ページの重点プロジェクト②-3「ネットワーク形成の推進」について(1)文化芸術データベースの構築と活用が令和5年度は未実施となっている。これに関連して、前期行動計画の計画期間が4年間であるが、重点プロジェクトが本当にこのままでいいのか、中間地点で見直して、修正すべきところは修正するという事を考える必要があるのではないか。本当にデータベースが出来るのか、上手くイメージが出来ない部分もあるので、</p>

	それらも含め見直しが必要なのではないだろうか。
事務局	<p>芸術文化アドバイザーの活用について、年度途中ではあるが、現段階では現代ガラス展におけるミュージアムコンサートの実施についての助言で1回、かるた教室と大会についての助言が2回、現代ガラス展萩展における説明依頼で1回である。具体的には、音楽の分野で言えば、市と演者の方を繋げていただいたり、かるたの分野で言えば、どのような手法で教室や大会を実施した方がいいのか、などアドバイスをいただいている。</p> <p>情報提供については、市では広報、ホームページ、Instagram、ライン等で情報発信をしているところである。加えて当課としては、FM スマイルウェブで月1回ラジオにて広報活動をしている。一方で、情報発信の乏しさを感じていたところもあり、マスメディア（テレビ局等）を使用した広報活動を行いたいと予算計上したが、査定で認められなかった。このことから、特段何かできるかというところ、今のところできていない。引き続き、広報、ホームページ、Instagram、ライン等で情報発信していきたい。</p> <p>重点プロジェクト②-3「ネットワーク形成の推進」(1)文化芸術データベースの構築と活用については、ビジョン作成時から委員も変わっており、事務局としてもイメージがついていないのが正直なところである。ただ、費用をかけずにホームページ等で情報提供を促すことは出来るのではないかと考えているが、現状、結論に至っていない。また、文化芸術振興ビジョンについては令和4年4月策定だったが、前期行動計画は令和5年4月から始まったばかりである。計画期間の4年間の様子を見て、変更すべきところがあれば変えていきたいが、事務局としてはビジョンにも書いてあることであり、挑戦していきたい方向である。</p>
委員長	先ほど委員から意見のあった、前期行動計画を中間地点で見直すことについては、待った方がいいということか。
事務局	現段階では、前期行動計画が始まったばかりであることから、挑戦していきたい。委員の皆様の意見も拝聴しながら進めていこうと考えているが、もう少し様子を見ていただきたい。
委員長	承知した。来年度のこの時期に、また同じような意見が出れば、前期行動計画の見直しについて話があるかもしれないということか。
事務局	そのとおりである。
委員長	似たような話が何回か重なっていたことがあったことも、考慮してもらい

	たい。
委員	資料4 担い手の育成・若手芸術家及び芸術創作活動の活動支援事業について、却下されたことは残念であった。
委員長	具体的に申請はあったのか。
事務局	申請はない。
委員	これでは説得力がないように感じる。若者に対する育成・活動支援について何か考えなければならない。
委員長	申請事業がなかったから、却下されたということか。
事務局	当該事業の実現に向けた方法や枠組みを構築し、予算化された後に募集することとなるが、その前段階で認められなかったということである。なお、この事業については、委員の皆様には公開していない。
委員	本当に確保しようとするならばもう少し具体的に示す必要があるように思う。いいアイデアがないのが申し訳ないが、この内容では差し戻されても致し方ないように感じた。
委員長	専門的にイメージされていないから、そのとおりだと思う。内容について詳しくないと難しいように感じた。
事務局	方法や枠組みの構築についても、委員の皆様に意見を伺ったところであり、ビジョン作成時にも相談させていただいた。事務局の知識がないところもあるが、ぜひ、委員の皆様の意見をいただき、来年度以降の予算化に向けて動きたいと思う。
	<p>次第3 その他</p> <p>今後の会議時期について、毎年7月～8月頃に1回、翌年2月～3月に1回と年2回の開催を予定している。2月～3月の会議については、行動計画にある定時評価の実施及び新年度予算要求の結果報告をする機会になると考えている。なお、令和8年度は、前期行動計画の終了年度となることから、年2回の開催に加え、別途協議をさせていただく場合があることを御了承願いたい。</p> <p style="text-align: center;">～終了～</p>